

一、法人全体

(1) 令和2年度実施事業の概要

事業種目	事業所名称	定員	所在地
就労継続支援B型	マルシェ	74→80	下戸次・田尻
就労移行支援		休止→廃止	下戸次
共同生活援助	グランディール寒田Ⅰ	7	寒田
	グランディール寒田Ⅱ	7	寒田
	グランディール敷戸	7	敷戸南
短期入所	グランディール敷戸	1	敷戸南
放課後等デイサービス	プレジール	10	田尻
特定計画相談支援	リュミエール	—	下戸次
障害児相談支援		—	下戸次
日中一時支援	エスポワール	10	下戸次
合計		122	

- マルシェの就労移行支援事業（定員6人）は利用者の減少と収支上の問題から令和1年10月から1年間休止しましたが状況が変わらないため令和2年10月に廃止しました。ご利用者が就労継続支援B型への移行を希望されたためB型の利用定員を74人から80人に変更しました。その後、長期入院やメンタルな事情（引きこもり等）による利用休止者が増えたこと、介護度の高いご利用者が生活介護に移行されたことなどから令和3年度からB型の定員を60人に変更する手続きをとっています。
- リュミエールは相談支援事業所として障害者88人、障害児17人（合計105人）を対象に福祉サービス利用に係るアセスメント、利用計画作成、モニタリング、関連機関会議を行うとともに各種相談支援を実施してきましたが職員体制体制の継続が困難となり令和3年4月から1年間休止する手続きをとりました。1年後に事業再開もしくは廃止を選択します。

(2) 令和2年度法人全体の事業活動収支（単位：円）

法人全体	R2年度	R1年度	増減	前期比率
活動収益計	207,867,315	209,831,185	-1,963,870	99.1%
活動費用計	209,819,383	204,926,543	4,892,840	102.4%
（うち人件費）	141,142,716	136,185,843	4,956,873	103.6%
（人件費率）	67.9%	64.9%	3%	104.6%
活動増減差額	-1,952,068	4,904,642	-6,856,710	
経常増減差額	-1,086,786	5,235,764	-6,322,550	
当期活動増減差額	-705,802	5,257,490	-5,963,292	
当期末繰越差額	145,093,512	145,799,314	-705,802	99.5%

法人全体の活動収益は前年を200万円割り込む一方で人件費が490万円増加し、70万円の赤字となりました。

(3) 事業所ごとの活動収益の状況

事業所	R2 年度	R1 年度	増減	当期活動増減差額
マルシェ拠点計	149,528,916	143,052,802	6,476,114	-1,322,311
法人本部	840,000	92,204	747,796	-3,246,043
マルシェB型	138,076,456	129,448,508	8,627,948	-1,665,208
マルシェ移行支援	0	3,549,100	-3,549,100	-328,574
日中一時支援	6,242,020	6,033,740	208,280	3,765,510
相談支援	4,370,440	3,929,250	441,190	152,004
G 寒田拠点計	37,891,812	45,688,868	-7,797,056	-1,716,784
寒田 I	15,539,959	16,797,509	-1,257,550	2,534,623
寒田 II	11,092,995	14,288,881	-3,195,886	-1,424,392
敷戸	10,522,448	13,429,438	-2,906,990	-3,563,135
短期入所・敷戸	736,410	1,173,040	-436,630	736,120
プレジール拠点計	20,446,587	21,089,515	-642,928	2,333,293
合計	207,867,315	209,831,185	-1,963,870	-705,802

- 1) 基幹事業所のマルシェ（B型）は就労移行支援の利用者を吸収、新卒利用者も増えて収益が増加しましたが人件費増により赤字を計上しました。
- 2) グループホームは大きく定員割れ（長期入院・転居）を起こし、空室が21室中6室に及んだことが収入激減と赤字化を招いており早急に満室化することが何より必要です。
- 3) プレジールも利用休止者により利用者が減少に転じており施設の老朽化対策や未就学児童の対応など魅力と活力のある事業所作りが検討されるべき時にきています。
- 4) コロナ関連では月1回のマルシェのクラブ活動通所を10ヶ月中止したこと、グループホーム・短期入所・放課後等デイサービスで利用手控えが出たこと等で300万円程度の減収になったと推定されます。今後も通所率に影響が懸念されます。

(4) 職場運営の確立

- 1) 施設長の年齢等の問題もあり施設長の世代交代をはかりましたが再整理が必要となりました。創設期から情熱と自主性に依拠したフラットな「仲間」的集団として形成された職場は時間が経過し規模が大きくなるにつれ、指揮命令系統や組織的責任・権限の未確立からくる弱点が顕在化し、職員の意識の多様化が進むなかで課題を積み残す運営となっていました。
- 2) 理事長が再度施設長に復帰する一方、社会医療法人帰巖会常務理事に組織・運営の見直しと再建の支援を理事会として要請し、理事長補佐・施設長代理に着任してもらいました。職員組織構築（施設長—サービス管理責任者—主任支援員—支援員、教育主任、事務課長、各事業所の運営会議、ライン会議、体系的な業務管理体制、看護師・社会福祉士等の専門職の採用）と、あきらめずに問題を共有し組織的に解決・対応していく企業文化と秩序ある職場作りに取り組んでいます。

二、各事業

(1) 多機能型就労支援事業「マルシェ」の事業

1) 就労継続支援B型事業（定員 80 人）

	H30 年度	R1 年度	R2 年度
開所日数	254 日	250	241
利用者延日数	14,637 日	15,195 日	16,225 日
月平均利用登録者数	70.4 人	72.3 人	78.5 人
1 日平均利用者数	57.6 人	60.8 人	67.3 人
平均通所率	81.8%	84.0%	85.7%
作業収入（売上）	18,044,087 円	17,954,958	18,073,296 円
月額平均工賃	14,130 円	12,943 円	12,986 円

1. 新型コロナウイルス感染防止の観点から月 1 回土曜日に開催してきたクラブ活動は年 2 回の実施に自粛せざるを得ませんでした。開所日数が 10 日少なくなっています。
2. 利用者定員は就労移行支援定員 6 人を組み込んだことでB型を 74 人から 80 人に増やしましたが、合計数としては 80 人で変わりません。職員体制としては目標工賃達成指導員配置加算（利用者対比 6:1 以上の職員配置基準）を算定していますが、6:1 以上の職員配置をしています。就労移行支援の職員（3 人）もB型に組み入れています。
3. 1 日平均利用者数は就労移行支援利用者の組み入れと新卒入所者 6 人により 67.3 人に増加しました。しかし、年度末に長期入院による退所・休所などが相次ぎ 65 人程度になっています。R3 年度新卒入所は 1 人です。こうした実態を踏まえて利用者定員を 60 人に変更することにしました。
4. 作業としては大別してパン・クッキー部門、ワーク部門（メンテナンス・リサイクル・受託作業・農作業等）があります。作業収入・平均工賃ともに前年度並みの実績となりました。専門家に指導を仰いでクッキーの品質・味の改善に挑戦したり、計画的な販売管理を検討したり、新規の受託作業を開発したりと工賃向上に向けて取り組んでいます。
5. 各作業が細分化され、職員も寸断・固定化された動きとなっていましたので運営会議・ライン会議で検討し機動的な連携を進めたり、昼の休憩が交代で取れるように工夫を重ねたりしています。
6. 平均工賃額に応じた報酬単価となっており、月平均 15,000 円以上を次の目標として取り組む必要があります。
7. 経験年数の浅い職員が増えたので障害特性の研修など研修を強化して利用者支援力を向上させることが必要ですので研修主任を配置しました。外部の専門講師を招いて人材育成に努めます。

2) 就労移行支援事業（定員 6 人）

	H30 年度	R1 年度	R2 年度
開所日数	255 日	123 日	0
利用者延日数	1,094 日	531 日	0
月平均利用登録者数	4.67 人	5.33 人	0

1日平均利用者数	4.29人	4.32人	0
平均通所率	91.9%	80.9%	0
作業収入(売上)	512,400円		0

1. 新卒利用者さんの受け皿として移行支援事業を継続してきましたが、A型やB型、生活介護等を希望される方が増えてきており、移行支援の利用者さんは減ってきております。事業としても赤字が続き、維持していくことが困難だと思われるので、令和1年度秋で休止いたしました。1年間の休止ですので、再開もしくは廃止の最終検討を行いました。状況が好転しないことから令和2年度9月で廃止しました。
2. 今後は一般就労への支援はB型事業の中で継続して取り組みます。

(2) グループホーム(共同生活援助)「グランディール寒田」の事業(定員21人)

グランディール寒田は住居が3つありグランディールI・IIとグランディール敷戸に区分され各定員が7人(計21人)となっています。

	H30年度	R1年度	R2年度
開所日数	365日	366日	365日
利用者延日数	5,698日	6,366日	5,327日
月平均利用登録者数	19.3人	20.0人	18.9人
1日平均利用者数	15.6人	17.4人	14.6人

外泊(帰省・入院等)は利用日に算定されません。

1. グランディール寒田では世話人配置基準の4:1基準を採用し、より多くの人員配置をして支援をしています。世話人は主として食事の提供、居室以外の清掃・環境整備を担当しています。
2. 障害支援区分3以上の方には世話人と別に生活支援員が配置されています。生活支援員は通院介助、買い物等の外出支援、入浴・排泄等の日常生活における介助、健康・衛生支援、金銭管理支援、就労先・通所先との連携、相談支援などの生活全般の支援を担当しています。区分3以下の利用者でも発達障がいや精神障害の利用者には配置基準を超えて生活支援員が必要な支援を行っています。
3. 過去、職員配置基準以上の人員を配置していたため、構造的に赤字の事業になっていました。職員体制をスリム化したことで現場の職員への負担は増えてしまったという問題を抱えましたが、現状では無理なシフトはなくなっています。しかし、自宅への退所(2人)、長期入院(2人)、一般アパートへの転居(1人)、コロナによる利用休止(1人)と利用率が70%となり経営的に大きな課題を抱えています。早急に満床にすることが必要です。
4. 夜間は宿直及び警備会社との業務委託契約で夜間支援を行っています。宿直専用の非常勤スタッフを採用し宿直体制を組んでいます。
5. グループホームに併設型の短期入所事業は、コロナ感染を警戒して利用を控える方が増え、一昨年対比で延べ利用者数68人→37人、(H30年度52人)で年間利用日数は260日y→161日(H30年度264日)と利用が減少しました。受け入れ側も慎重にならざるを得ません。

(3) 放課後等デイサービス「プレジール」の事業（定員 10 人）

	H30 年度	R1 年度	R2 年度
開所日数	240 日	235 日	240 日
利用者延日数	1,976 日	2,064 日	1,957 人
月平均利用登録者数	13.6 人	15.0 人	12 人
1 日平均利用者数	8.2 人	8.8 人	8.2 人

1. 1 名卒業され、14 人の登録人数となりましたが 2 人の方がほぼ休止状態となり実質の利用登録者は 12 人に減少しました。1 日 10 名限度の定員ですが、平均 8.2 人に減少しています。—昨年をピークに減少傾向に転じています。
2. 支援学校・支援学級 4 校の生徒の放課後と学校休業日は 9 時から 17 時までのデイサービスを実施しました。延長が必要な方には前後 30 分程度の延長支援を行っています。又、学校からプレジールまでと、必要な方はご自宅までの送迎を実施しています。
3. 個人ごとの支援計画をたて、計画に沿った支援に取り組んでいます。身辺自立・自己肯定感・集団の中での適応力・コミュニケーション能力を高めること等を目標にし、安心・安全で楽しく充実した日々を送れるよう心がけています。学校で授業を受けた後の放課後ということもあって過度にカリキュラムを詰め込むのは子どもたちに負担がかかると思いますが、発達障害児の増加という状況を踏まえ、支援の理念・コンセプト・プログラム・施設環境の見直しと改善も必要と考えます。プロジェクトを作って検討していきます。また未就学児の支援（児童発達支援事業所の併設）も視野に入れて調査・検討したいと考えます。そうした魅力あるヴィジョンを構築するとともに利用者の拡大に向かいたいと考えます。
4. 月に 1 回の定例会議と開所前の話し合いを行い職員間の共通理解を図っています。又、モニタリング・個別支援計画会議を行い、全員でよりよい支援が行えるように取り組んでいます。
5. 昨年に引き続き職員は、保育士・児童指導員などの専門資格者を配置するとともに、支援度が高い利用者さんがいますので、配置基準を超えて加配のパートの職員さんを配置しています。4 月には看護師、社会福祉士の資格を持つ職員を採用しました。
6. コロナ対策との関係で保護者会・お別れ会・消防署参加の防災訓練は見送りました。防災避難訓練は年 4 回実施しています。
7. 事業所評価表と保護者評価表のアンケートを実施し、ラポールのホームページに結果を掲載し、改善に取り組んでいます。

(4) 特定計画相談支援・障害児相談支援「リュミエール」の事業

	H30 年度	R1 年度	R2 年度
利用等計画作成件数（年）	117 件	110 件	97 件
モニタリング件数（年）	130 件	181 件	203 件
合計	247 件	291 件	300 件

1. 計画相談支援・障害児相談支援の事業も平成 25 年度に開設して 7 年目となり、計画相談件数も増加してきました。
2. 相談支援専門員は 1 名体制ですのでかなりハードスケジュールになっています。兼務でもう

1 名の相談支援専門員を配置できるよう研修受講など材育成をすすめましたが間に合いませんでした。担当職員が勤務継続困難となり、残念ながら令和3年3月末で事業を休止せざるを得ないと判断しました。

3. 105人の利用者の皆さんには新たな相談支援事業所を紹介し、契約の切り替えを進め、支障が生じないようにしました。

(5) 日中一時支援「エスポワール」の事業（定員10人）

	H30年度	R1年度	R2年度
開所日数	240日	236日	219日
定員	10人	10人	10人
利用者延日数	1,930日	1,925日	1,768日
1日平均利用者数	8.0人	8.2人	8.1人

1. 日中一時支援事業は大分市・臼杵市との委託契約に基づく事業で、マルシェ（就労継続支援B型事業所）の作業後の時間・場所を活用できるという制度をもとに平成25年度から開始して7年目になります。
2. 利用希望者も増えましたので、26年度から定員を5人から10人に増やしています。現在も利用希望者が増えて、1日定員を超過しないように利用調整を行う場合もありますので定員を増やすことも検討したいと考えています。
3. 利用者の希望・事情に応じて送迎も実施しています。保護者が就労されていたり疾病等でケアが困難な場合に大変助かっていると評価されています。
4. 大分市に加えて臼杵市とも委託契約を締結し、臼杵市在住の方も利用されています。